

⑦

粟生岩阪地内鉢伏山付近（茨木市）

文・写真 有家 研一（鉢伏山森づくりの会）

大阪モノレールの終点「彩都西」で降り10数分歩いたところで、30数戸の葺の波の美しい粟生岩阪に入り、茨木自然歩道の案内の通り鉢伏山をめざし、高さ299mの頂上に登れば、北側には京大地震測候所とその後ろには藤原鎌足の墓を見ることができる。麓にはこの山を源にする佐保川が流れ、モクズガニ・フナ・カワムツ・オイカワ・アブラハヤ・ドンコなどが見られ、山ではリス・イタチ・イノシシ・シカが生息し、鳥類ではタカ・オシドリ・カモ類が渡ってき、植物ではフウランやヤマモモの大き木が幾本もあり、台切りや炭焼き窯の跡も見られ、亜炭の露頭も見受けられる。東南には生駒山、南に目を向けると彩都の町並みで、その向こうには南港・尼崎・西宮の港が見える。山のふもとの田・池沼ではメダカ・イモリ・ヤゴもおり、池田から箕面・本付近・高槻にかけては以前より昆虫が多いことで知られている。

鉢伏山の保全には、わが団体だけではなく、茨木市内のボランティア・立命館大学の学生も協力してくれ、数年前の台風での倒木も整理もつき、次の目標を検討しているところである。



鉢伏山山頂付近



頂上から見る風景

⑧

鵜殿のヨシ原

文 福田 雄一（茨木・高槻の自然に親しむ会） 写真 今枝 紀男（同左）

鵜殿は淀川右岸、大阪府高槻市上牧から前島に広がる河川敷で面積75ha（甲子園球場の18倍）長さ2.5km、最大幅400mのヨシの生育地です。ヨシはイネ科で、暖帯から亜寒帯にかけて広く分布し、湖岸や河川などの湿地帯に生育する多年草です。ヨシ原は、多様で貴重な生物を育てています。その一つがツバメの集団ねぐらです。鵜殿の集団ねぐらは1995年の発見以来26年間続いており、大阪で安定した観察地です。夕方つぎつぎと集まって来て空いっぱいにツバメがひしめき合い、ピチュピチュピチュと鳴き声が聞こえます。1万羽から多いときは3万羽を超えるツバメの集団行動は、毎回、参加者に驚きと感動を与えてくれます。

また鵜殿のヨシは、雅楽を支えるヨシと言われています。それは雅楽の楽器・箏^{しちりき}・箏^{ろぜつ}の蘆舌（吹き口のリード）に使われるからです。特に鵜殿のヨシは肉厚で、弾力があるので、蘆舌には最適だそうです。毎年2月鵜殿では雑草や害虫駆除のため「ヨシ焼」が行われていますが鵜殿の上を通る第2名神高速道路の建設の影響が懸念されます。



鵜殿のヨシ原(2014年8月)



ツバメの増入り(2015年8月)